

2025年度の省エネルギー対策の総括

義塾において 2025 年度に消費したエネルギー全体の使用量と目標設定における前年度の使用量とをエネルギー消費原単位（※1）の数値で比較して評価を行った。カーボンニュートラル化の推進とエネルギー（電気・ガス）コストの変動に対応するため、省エネ法で定められた目標値（エネルギー消費原単位を年平均で 1%以上低減）より高い省エネルギー目標として「各キャンパス単位でエネルギー消費原単位を 2024 年度比で 2%以上低減する」と設定し省エネルギー対策を実施した。

※1 エネルギー消費原単位

異なる単位を用いるエネルギー（電気・ガス）の使用量を合計するために、各エネルギーを熱量換算し、その合計値を各キャンパスの延べ床面積で除して「エネルギー消費原単位」を算出する。

■年間エネルギー消費原単位比較

三田・信濃町の両キャンパスにおいて省エネルギー目標を上回り（それぞれ-6%、-3%）、矢上・芝共立においても省エネルギー目標を達成するという成果を上げた。また、日吉・湘南藤沢の両キャンパスにおいては前年度のエネルギー消費原単位を維持するという結果となった。

年間エネルギー消費原単位比較（単位：MJ/m²・年）

	2024 年度 エネルギー 消費原単位 ※1	2025 年度 エネルギー 消費原単位	2024 年度との比較	
			差異	差異 比率
三田キャンパス	724	683	-41	94%
日吉キャンパス	849	847	-2	100%
矢上キャンパス	2, 104	2, 067	-37	98%
湘南藤沢キャンパス	803	804	1	100%
芝共立キャンパス	1, 703	1, 669	-34	98%
信濃町キャンパス	2, 854	2, 778	-76	97%
主要6キャンパス	1, 560	1, 523	-36	98%

■2025 年度省エネルギー対策の評価

2025 年度の気象条件は、前年度と比較して夏季（6～9 月）の平均気温が約 0.5℃上昇、冬季（12～3 月）が約 0.4℃上昇した。この変化は、エネルギー消費において夏季の冷房需要を押し上げる一方、冬季の暖房需要を抑制する要因となった。また、中間期においても前年度と同様に空調運転（主に冷房）が必要な状況が続いており、エネルギー消費量が増加しやすい環境であった。このような条件下においても上記のような成果が得られた要因は、以下のハード・ソフト両面での対策による効果であると考えられる。

- ・照明器具の LED 化を継続的に推進したことによる電力消費の抑制
- ・CGS 含む熱源設備の運用改善によるエネルギー消費量の削減
- ・空調・換気設備の効率的な運転管理を徹底したことによるエネルギー消費量の削減

気象変動によるエネルギー増加分を、これら設備更新と運用改善の効果が上回った結果、全キャンパスにおいて前年度並み、あるいは目標を上回る良好な省エネルギー成果を得ることができた。

以 上